

基本目標 I

確かな学力と自立する力の育成

---

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

施策4 特別支援教育の推進

施策5 幼児教育の推進

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策Ⅰ 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標					
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
1 30人程度学級 「あげおっ子アッププラン」事業	81,606 千円	A	少人数学級教員数		22人	24人	26人	
			教育に関する 3つの達成目標 「学力」 達成目標達成率	読む・書く	小1	92.9%	96.8%	97.0%
					小2	94.9%	93.7%	96.2%
					中1	90.1%	93.8%	93.8%
			計算	小1	96.8%	97.6%	96.5%	
				小2	91.8%	94.4%	95.4%	
				中1	87.3%	87.2%	90.5%	
規律ある態度80%達成 項目数(小1・小2・中1)		29/36項目	28/36項目	31/36項目				
2 学級支援員派遣事業	24,283 千円	A	配置支援員数		23人	20人	27人	
			支援員配置率		—	40.0%	48.2%	
3 理科教育振興事業	158 千円	A	上尾支部科学展出品数		155作品	161作品	144作品	
			埼玉県学習状況調査 理科 正答率	小5	—	71.1%	73.2%	
				中2	—	58.7%	53.9%	
4 教育に関する3つの達成目標 推進事業	510 千円	A	「学力」の達成率		91.3%	93.5%	94.5%	
			規律ある態度80%達成 項目数(全108項目)		89項目	93項目	99項目	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランクの 児童生徒の割合	小学校	77.24%	78.37%	79.47%	
				中学校	84.20%	83.90%	84.85%	
5 魅力ある学校づくり事業	6,789 千円	A	委嘱研究発表校数		11校	11校	13校	
			市学力調査 平均値	小学校	52.5	52.2	52.4	
				中学校	50.9	51.0	50.7	
			教育に関する達成目標 (週1時間以上運動する児童 生徒の割合)		80.1%	85%	90%	
6 学力向上支援事業	7,262 千円	A	家庭等で学習している 児童生徒の割合	小学校	55.6%	57.0%	60.7%	
				中学校	66.4%	65.5%	65.3%	
			市学力調査 平均値	小学校	52.5	52.2	52.4	
				中学校	50.9	51.0	50.7	
7 小学校理科支援員配置事業	450 千円	B	理科支援員配置校数		22校	22校	6校	
			理科支援員配置時数(年間)		15.5時間	5.9時間	9.5時間	
			埼玉県学習状況調査 理科 正答率	小5	—	71.1%	73.2%	
				中2	—	58.7%	53.9%	

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.5	52.2	52.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.9	51.0	50.7	

## ◎教育委員会の施策評価

児童生徒に「生きる力をはぐくむ」ため、基礎基本の確実な定着を図り、児童生徒一人一人に「確かな学力」を身につけさせるとともに、知・徳・体の調和のとれた教育の一層の推進を図る。平成23年度においても、計画的に委嘱研究を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図り、学校の教育力を高めてきた。埼玉県全県で取り組んでいる「学力」「規律ある態度」「体力」の3領域における取組を推進するとともに、幼稚園・保育所などから小学校、中学校へと学習環境の変化に伴う、児童生徒の不適応を解消するために、30人程度学級を実施し、落ち着いた学習環境の中で一人一人への「きめ細かい指導」が行うとともに、学級支援員を配置することにより、支援を必要とする児童生徒の個々の状況に合わせた教育を進めてきた。また、市学力調査結果から、明らかとなった児童生徒の学習状況の実態をもとに、全小・中学校において、学力向上プランを作成し、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、確かな学力の定着を図った。なお、国における学級編制に係る法改正及び埼玉県における特例編制という環境変化、さらには、教育現場の現況を総合的に勘案し、平成24年度からは、個々の児童生徒への支援をさらに充実していくために、30人程度学級「あげおっ子アッピープラン」事業（事業番号1）、学級支援員派遣事業（事業番号2）、特別支援教育支援員配置事業（事業番号18）及び学校図書館支援員派遣事業（事業番号25）を統合し、「さわやかスクールサポート事業」として発展的的事业改正を行う。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.4	53.2	
	中学校	50.7	52.0	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策Ⅱ 時代の変化に対応した教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
8 日本語指導職員派遣事業	2,224 千円	A	派遣指導員数	10人	12人	9人	
			指導員派遣率	100%	100%	100%	
9 準教科書・副読本整備事業	13,448 千円	A	道徳副読本整備率	67%	67%	67%	
			規律ある態度80%達成 項目数（全108項目）	89項目	93項目	99項目	
10 英語弁論暗唱大会開催事業	57 千円	A	大会参加生徒数	30人	33人	33人	
			市学力調査英語平均値	50.7	50.8	51.7	
11 中学生海外派遣研修事業	7,800 千円	A	派遣応募生徒数	43人	51人	46人	
			派遣生徒数	中止	22人	22人	
12 小中学校ALT配置事業	100,698 千円	A	ALT配置人数	15人	15人	27人	
			ALT活用時数	小学校	7.5時間	9.6時間	30.6時間
				中学校	26.7時間	27.9時間	36.0時間
中学生海外派遣研修 応募生徒数	43人	51人	46人				

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.5	52.2	52.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.9	51.0	50.7	

## ◎教育委員会の施策評価

今後さらに進展する国際社会の中で、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質・能力を育成することは重要であり、そのためには、郷土や自国について正しく理解することが必要である。また、異なる生活習慣や文化を認め、互いに尊重し合い、協力してよりよい生活を作り出す力の育成は急務であり、特に外国語を学び、外国語によるコミュニケーション能力を高めることは、これからの時代に必要である。さらに、価値観が多様化し、変化の激しいこれからの時代をたくましく切り拓くことができる児童生徒を育成するためには、豊かな心と健やかな身体をはぐくむことが重要である。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.4	53.2	
	中学校	50.7	52.0	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策Ⅲ 進路指導・キャリア教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
13 中学生社会体験チャレンジ事業	596 千円	A	職場体験事業所数	209事業所	214事業所	233事業所	
			職場体験充実度	生徒	98.2%	97.8%	98.6%
				保護者	99.4%	99.4%	99.5%
14 中学生進路意識啓発事業	111 千円	A	講演会開催回数	14回	24回	24回	
			講演会参加生徒数	5,200人	6,618人	7,781人	

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	
職場体験充実度	生徒	98.2%	97.8%	98.6%	職場体験をよいと回答した割合
	保護者	99.4%	99.4%	99.5%	
進路講演会参加生徒数	5,200人	6,618人	7,781人		

## ◎教育委員会の施策評価

ニートやフリーターなど、若者の勤労観や職業観が大きく変化している社会の中、小学校段階からの教育活動全体を通じて、児童生徒が明確な目的意識を持って、主体的に自己の進路を選択できる能力を身につける必要がある。発達段階に応じたキャリア教育を施していくことが必要であり、小学校の段階では、総合的な学習の時間などに、「未来地図」と称して、児童が自分の将来を考えるきっかけづくりを行い、中学校では事業所等での社会体験活動を行った。これらの事業は、望ましい勤労観等を育成するために有効な手段であり、効果的であった。また、いじめや不登校、青少年の非行問題などの背景には、自然体験や社会体験の不足等も原因の一つとして挙げられている。さらに、中学生が地域の中で様々な社会体験活動を行い、多くの人々とふれあう中で、みずみずしい感性や社会性、自立心を養い、たくましく豊かに生きる力をはぐくむことは重要である。

進路指導については、「人間としての生き方に関する指導」であり、将来にわたって「職業観・勤労観」を育成することが求められている。進路指導連絡協議会などを通じて、学校・教員間の連絡連携を図り、生徒・保護者との面談のほか、進路相談を実施し、生徒の夢、希望の実現の支援を行った。また、地域で活躍する方々を学校に招き、講演会をとおして、生徒・保護者の進路に関する意識の啓発を行った。

中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図ることは、よりよい社会づくりのためにも重要である。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
職場体験充実度	生徒	98.6%	100%	
	保護者	99.5%		
進路講演会開催回数		14回	24回	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策４ 特別支援教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
15 特別支援学級補助員派遣事業	15,666 千円	A	補助員配置人数	8人	9人	9人
			補助員配置率	25.0%	26.5%	26.5%
16 特別支援教育推進事業	206 千円	A	特別支援教育研修会回数	4回	5回	5回
			特別支援教育研修会参加者数	100%	100%	104%
			障害のある児童生徒の理解	500人	500人	500人
17 特別支援教育体制整備事業	330 千円	A	巡回相談員巡回回数	—	—	20回
			特別支援教育支援員配置人数	10人	10人	20人
18 特別支援教育支援員配置事業	16,822 千円	A	支援員配置学校数	10校	10校	20校
			支援員配置校率	62.5%	58.8%	76.9%
			支援を受ける児童生徒数	47人	60人	116人
			支援率	17.2%	11.6%	14.3%

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
支援員配置校率	62.5%	58.8%	76.9%	配置校数÷申請校数×100
支援率	17.2%	11.6%	14.3%	支援員数÷申請児童生徒数×100
障害のある児童生徒の理解	500人	500人	500人	合同作品展入場者数
特別支援教育支援員配置人数	10人	10人	20人	特別支援教育支援員配置人数



## ◎教育委員会の施策評価

特別支援教育を推進するためには、教員の指導力・資質の向上は欠かせない。専門的な知識・技能を習得するための質の高い研修会は不可欠である。また、特別支援学級・特別支援学校児童生徒合同作品展は、障害のある児童生徒にとって活躍の場、市民にとって障害のある児童生徒を理解する場として必要である。また、教育基本法第4条2項に「障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない」とあり、市の責務として、すべての学校が特別支援教育を推進できるように、支援する必要がある。支援員配置校では、支援の必要な児童生徒の個別支援プログラムを作成し、支援するクラスを記入した時間割を組むなど、効率よく支援員を活用している。支援対象の児童生徒の学校生活にも徐々に改善が見られ、精神的ストレス等からくる二次的障害も防ぐことができている。更には、通常の学級で取り込まれる一斉指導や課題解決的学習等の学習面において、学級として機能させる上でも個別対応ができる支援員の存在は大きく、重要な事業である。支援の有無によっては、不登校や社会的不適応等に陥る可能性がある児童生徒も少なくない。将来の社会的自立に向けた適切な教育を受けて、障害からくる諸課題を改善し、豊かな学校生活を送らせるため、特別支援教育支援員の配置は必要不可欠である。

平成24年には、本市における特別支援教育に関する基本方針及び総合的な教育支援体制を整備し、特別支援教育を推進するため、上尾市特別支援教育検討委員会を立ち上げる。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
特別支援教育支援員配置校数	20校	33校	
特別支援教育支援員支援率	14.3%	30%	40%

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策5 幼児教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
19 幼稚園就園奨励費補助事業	287,265 千円	A	就園奨励費補助金 支給率	公立	10.0%	11.9%	26.2%
				私立	73.6%	77.5%	77.8%
20 私立幼稚園児保護者 負担軽減費補助事業	70,535 千円		公・私立幼稚園 保育料差額		—	102,839円	100,245円
			補助額		102,236円	102,837円	111,145円

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
幼稚園就園率	84.0%	84.2%	86.3%	全幼稚園児数／（人口－保育所等通園児数） ※市内在住3、4、5歳児
幼稚園等と連携・交流 している小学校の数	22 / 22校	22 / 22校	22 / 22校	

## ◎教育委員会の施策評価

幼児期の教育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであり、幼稚園への就園を奨励することは、就学後の教育の充実にもつながる重要な施策である。しかし、幼稚園への就園を希望する幼児の保護者の経済的負担が大きいため、補助を行うことで、負担を軽減し、経済的側面から幼稚園への就園機会の確保を図っている。幼稚園への就園率は増加傾向にあり、施策の効果が反映されていると考える。

また、上尾市幼児教育推進協議会の開催などにより、小学校と保育所・幼稚園等における児童と幼児の交流や教職員間の情報交換の連携も図られる体制が構築されており、平成23年度も、小一プロブレムの解消に向けて、すべての小学校が幼稚園や保育所と交流した。

さらに、幼稚園は、地域の子育て拠点としての役割を担っていることから、各幼稚園が実施する子育て支援事業について、埼玉県とともに積極的な支援を行った。

幼児教育のより一層の推進を図るため、引き続き、幼保小の連携、地域における子育ての支援など、多角的な事業展開に取り組んでいく必要がある。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
幼稚園就園率	86.3%	87.3%	88.3%

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見



## 基本目標Ⅱ

### 豊かな心と健やかな体の育成

---

- 施策1 豊かな心の育成
- 施策2 生徒指導の充実
- 施策3 人権教育の推進
- 施策4 学校教育相談の充実
- 施策5 学校保健の充実
- 施策6 食育の推進・学校給食の充実
- 施策7 児童生徒の体力向上

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
4 教育に関する3つの達成目標 推進事業	510 千円	A	「学力」の達成率	91.3%	93.5%	94.5%	
			規律ある態度80%達成 項目数(全108項目)	89項目	93項目	99項目	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランクの 児童生徒の割合	小学校	77.24%	78.37%	79.47%
			中学校	84.20%	83.90%	84.85%	
9 準教科書・副読本整備事業	13,448 千円	A	道徳副読本整備率	67%	67%	67%	
			規律ある態度80%達成 項目数(全108項目)	89項目	93項目	99項目	
21 小中学校図書整備事業	32,660 千円	A	増加冊数	小学校	15,717冊	7,179冊	13,272冊
				中学校	8,701冊	3,295冊	6,959冊
			廃棄冊数	小学校	1,674冊	593冊	43,153冊
				中学校	74冊	199冊	17,848冊
			年度末現有冊数	小学校	198,291冊	204,860冊	174,740冊
				中学校	111,496冊	114,566冊	103,677冊
図書標準 目標達成率	小学校	88.5%	91.6%	78.1%			
	中学校	79.6%	81.6%	72.1%			
22 図書館資料整備事業	37,410 千円	A	蔵書数(全9館)	566,172点	574,733点	580,537点	
			蔵書密度(市民一人当たり)	2.49点	2.53点	2.56点	
			図書館利用者数(全9館)	390,129人	384,793人	385,539人	
			総貸出点数(全9館)	1,475,051点	1,440,079点	1,418,163点	
			貸出密度(市民一人当たり)	6.50点	6.34点	6.24点	
23 学習支援事業	196 千円	A	外部指導者補助率	60.6%	50%	100%	
			外部指導者活用数	90点	70点	97点	
24 学校図書館支援員派遣事業	6,373 千円	A	学校図書館支援員数	8人/33校	8人/33校	8人/33校	
			派遣回数(1校当たり平均)	43回	43回	43回	
			「読書が好き・ど ちらかといえば好 き」と回答した児 童生徒の割合	小6	74.2%	71.6%	72.6%
中3	72.0%	73.8%		75.8%			
25 指導法改善事業	79,622 千円	A	指導の重点努力点配布数	933冊	935冊	942冊	
			研修会実施数	37回	37回	44回	
			市学力調査 平均値	小学校	52.5	52.2	52.4
				中学校	50.9	51.0	50.7
26 小中学校音楽会開催事業	868 千円	A	参加学校数	30校	33校	33校	
			参加者数	約1,800人	約2,000人	約2,000人	
27 中学校部活動支援事業	3,080 千円	A	部活動指導員配置率	76.3%	78.9%	78.9%	
			運動部活動加入率	73.3%	75.3%	74.2%	
28 中学校吹奏楽演奏会開催事業	252 千円	A	参加学校数	10校	11校	11校	
			一般参加者数	302人	282人	310人	
29 道徳教育研究推進モデル校事業	760 千円	A	道徳教育研究発表会	—	—	2回	
			研究発表会参加者数	—	—	348人	
			規律ある態度80%達成 項目数(全108項目)	89項目	93項目	99項目	

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
学力の達成率（読む・書く・計算）		91.3%	93.5%	94.5%	小・中学校全学年正答率
規律ある態度80%達成項目数		89 / 108項目	93 / 108項目	99 / 108項目	規律ある態度達成数 （小・中学校合計）
「読書が好き・どちらか といえば好き」と回答した 児童生徒の割合	小6年	74.2%	71.6%	72.6%	市学力調査 生活アンケート
	中3年	72.0%	73.8%	75.8%	
研究発表会参加者数		—	—	348人	

## ◎教育委員会の施策評価

家庭や地域の教育力の低下とともに、規範意識や人間関係の希薄化が指摘される昨今の社会において、子どもたちが基本的な生活習慣を身に付け、子どもたちの規範意識を高めるとともに、自らを律しつつ、他者を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性をはぐくむため、家庭と連携し、学校の教育活動全体を通じた道徳教育が求められている。平成23年度も、外部指導者や学校支援ボランティアの協力によって地域全体で学校教育の質を高め、各学校で特色ある教育活動を行うことができた。

適正な教育課程を編成、実施し、学力向上及び教育活動の充実を図るためには、指導する教員の資質・能力の向上を図ることが重要である。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、教育委員会が道徳教育研修会等の研修会を実施したほか、教職員が休日や勤務時間外に自ら進んで、教師力アップ講座と題した各教科の指導法やICT機器を活用した指導法などについて自己研鑽にも励んだ。

豊かな心をはぐくむために、教育活動としての部活動は、心技体をはぐくむ場として有効である。生徒の技能の向上を図り、安全を確保するとともに、部活動の活性化を図ることからも、地域からの指導者として、部活動指導員も配置した。また、児童生徒が芸術文化に触れ、自らが参加する小中学校音楽会や中学校吹奏楽演奏会も実施した。これらは、一般公開することで、市民への芸術文化の提供と学校理解につながり、市の文化的な活動としての一翼を担っている。

道徳教育推進状況調査においては、家庭・地域との連携の推進に取り組む学校が増えている結果が示されており、家庭・地域と連携した道徳教育を展開し、豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育を充実することができた。

各学校においては、豊かな心をはぐくむために、小中学校全校において朝読書にも取り組んだ。教育委員会としては、子どもの読書活動を推進するために、司書教諭を対象とした研修会を実施したほか、各校に学校図書館支援員を派遣し、読書の楽しさを体得する環境づくり、取組を行ってきた。平成24年度からは、子どもの読書活動支援センターを開設し、子どもたちの読書活動の拠点として、読書を通じて子どもたちの豊かな心をはぐくむ施策に積極的に取り組んでいく。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
規律ある態度80%達成項目数		99項目 / 108項目	108項目 / 108項目	
「読書が好き・どちらかとい えば好き」と回答した児童生 徒の割合	小学校	72.6%	75.0%	78.0%
	中学校	75.8%	77.0%	80.0%
学校図書館支援員による支援回数 の割合		20%	60% 以上	

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
30 生徒指導推進事業	4,550 千円	A	支援員派遣校数	6校	5校	5校
			支援員1校あたり 週派遣日数	1.3日	1.6日	1.6日
			暴力行為発生件数	38件	16件	26件
			街頭補導回数	585回	558回	536回
			地域の集い参加者数	325人	338人	359人
31 さわやか相談室運営事業	17,718 千円	A	相談室の相談回数	12,366回	14,073回	9,927回
			相談の解決率	56%	79%	80%
			不登校生徒出現率	1.82%	1.81%	1.69%

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
街頭補導回数	585回	558回	536回	各中学校区における補導回数
地域の集い参加者数	325人	338人	359人	青少年健全育成地域の集い参加者数
不登校生徒出現率	1.82%	1.81%	1.69%	不登校生徒数÷全生徒数×100



## ◎教育委員会の施策評価

児童生徒の問題行動の予防や解決に当たっては、家庭と連携して、一貫性を持った生徒指導体制をすべての学校で整備することが必要である。

繰り返し暴力行為等を起こす児童生徒に対しては、必ず複数の教員による指導を行い、職員の危機管理意識を高め、共通理解のもとに共通指導を行うよう各校に指導している。併せて、非行・問題行動の未然防止のため、生徒指導支援員を希望する学校に配置し、校内巡視など行うことで、教員の支援を行った。警察官〇Bなどの専門性の高い支援員を配置することで、非行・問題行動を繰り返す生徒への教員の指導を支援することができ、再発防止等にも効果的であった。

また、少年非行を防止するための取組や、非行などの問題を抱える少年が立ち直るための支援には、学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組むことが重要であることから、上尾市生徒指導推進協議会を設置し、中学校区内のパトロールなど具体的な実践を行い、児童生徒及び青少年の非行・問題行動を未然に防ぐなど、青少年の健全育成の中心となって活動した。青少年健全育成地域の集いでは、各中学校区、市内高等学校の生徒指導の実践報告を行うとともに専門家による講演会を実施し、学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の健全育成活動推進のため、大きな役割を果たすことができた。

昨今、社会問題となっている「いじめ」については、各学校でアンケート調査等を定期的実施するなど、いじめの未然防止に積極的に取組んできた。また、児童生徒及び保護者と信頼関係を築き、いじめの早期発見、早期解決を図ることができたと考えている。しかしながら、いじめについては、根絶することが目標であり、「いじめをしない、させない、許さない」取組の一層の充実を各校で図っていかねばならない。

不登校児童生徒数については、ここ3年間、確実に減少している。効果のあった取組については、アンケート調査の実施や、教育相談日の設定、さわやか相談室と家庭との連携などがあげられ、やはり「早期発見」「早期対応」が、不登校解消への一番の手立てであると考えられる。しかしながら、その数は依然小・中合わせて130人を超える数となっており、毎年度不登校児童生徒出現率の目標値を設定し、各校で実態に応じた取り組みを行い、平成24年度は、教育センター職員による、さわやか相談室への訪問を平成23年度以上に実施していきたい。

相談室において教室復帰を目指す生徒や、悩みを抱える生徒に対し、さわやか相談室が有効に機能し、重要な役割を果たしている。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
規律ある態度80%達成項目数	99項目 / 108項目	108項目 / 108項目	
不登校生徒出現率	1.69%	1.58%	1.50%

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
32 人権教育推進事業 (指導課所管分)	1,382 千円	A	研修会・授業研究会 実施回数	7回	8回	8回
			研修会参加者数	169人	169人	169人
			教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言 葉づかいができると回答した 児童生徒の割合	85.6%	86.2%	86.5%
			作文・標語集等配布率	100%	100%	100%

## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいで できると回答した児童生徒の割合	85.6%	86.2%	86.5%	
作文・標語集等配布率	100%	100%	100%	配布数/児童生徒数×100

## ◎教育委員会の施策評価

いじめ、暴力行為、不登校や非行問題行動の低年齢化など、生徒指導上の諸課題への対応が学校教育に強く求められている。また、地域社会においては、未だに社会的身分又は門地、性別、障害の有無による差別の現状もある。さらに、子どもや高齢者に対する虐待等、人権に関わる問題が深刻化している。このような現状の中で、すべての児童生徒に、発達段階に応じた「人権についての正しい理解」を深めるとともに、態度や行動で現すことのできる人間育成を目的とした人権教育を推進することは、今後も重要であり積極的に取り組む必要がある。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいで できると回答した児童生徒の割合	86.5%	90%	95%

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
33 不登校児童生徒の 学校適応指導事業	4,431 千円	A	適応指導教室入級者数	9人	11人	10人
			適応指導教室開設日数	163日	165日	167日
			学校への復帰率	100%	100%	100%
34 教育相談事業	9,284 千円	A	教育相談実件数	328件	310件	282件
			教育相談延べ回数	3,424件	3,829件	3,432件
			教育相談最終率	80.2%	78.7%	88.7%

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
不登校児童生徒出現率	0.72%	0.77%	0.70%	不登校児童生徒数÷児童生徒数×100
教育相談最終率	80.2%	78.7%	88.7%	
学校への復帰率	100%	100%	100%	

## ◎教育委員会の施策評価

平成23年度の上尾市内小中学校の不登校児童生徒数は133名であり、また、教育センターに寄せられた不登校に関する相談回数も、全相談回数のおよそ5割に達した。そこで、不登校の子どもたちの居所となる場所や、子どもとその保護者を支える場所が必要となる。学校においてはさわやか相談室や保健室がその役割を担っているが、そこへも通えない子どもたちの拠り所となるのが教育センターである。

教育センターでは、副主幹1名、臨床発達心理士1名、相談員4名、更には平成23年度より新たにスクールソーシャルワーカーを1名配置し、様々な教育相談に対応している。また、学校適応指導教室を週4日開設し、指導員3名が入級した児童生徒に、相談員からの情報をもとにカウンセリングや体験学習、自主学習をとおして指導・支援を行い、学校復帰につなげている。

平成23年度学校適応指導教室に入級した児童生徒の学校復帰率は100%であり、教育相談の終結率も88%を超えている。更に、教育センターと市内全中学校に設置されているさわやか相談室との連携を進められ、また、各学校の教育相談体制も充実してきた。その結果として、平成23年度不登校児童生徒の出現率を大きく減少させることができた。

今後も、不登校を出さないため、また、不登校になってしまった児童生徒を学校復帰させるため、教育センターでの教育相談機能の一層の充実を図っていく。また、同時に学校、家庭、教育センターの連携を進めながら、学校適応指導教室をより有効に機能させていきたいと考える。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
不登校児童・生徒出現率	0.70%	0.67%	0.65%

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 学校保健の充実

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	
「早寝 早起き 朝ごはん」調査	朝ごはんを必ず食べる	小学校	95.9%	96.1%	96.1%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査 (各年度4月調査)
		中学校	86.1%	93.1%	93.6%	
	起床時間 7時までに起きる	小学校	94.9%	95.4%	96.0%	
		中学校	76.5%	81.4%	83.8%	
	就寝時間 10時までに寝る	小学1年	97.0%	95.8%	96.5%	
		小学2年	93.5%	92.8%	93.2%	
		小学3年	90.4%	88.7%	89.5%	
		小学4年	84.9%	86.0%	81.9%	
		小学5年	74.2%	76.2%	77.3%	
		小学6年	57.2%	60.5%	64.4%	
	就寝時間 11時までに寝る	中学1年	76.8%	81.8%	82.6%	
		中学2年	47.4%	53.1%	54.3%	
中学3年		26.2%	27.6%	31.9%		
DMF保有数	小学校	0.51	0.47	0.41	※DMF保有数…過去にむし歯になったことがある歯の本数を表したもの	
	中学校	1.81	1.48	1.23		
	平均	0.95	0.81	0.68		

## ◎教育委員会の施策評価

子どもたちの生活習慣の乱れが指摘され、また、生活環境の急激な変化に伴い、アレルギー疾患なども増加している。各学校で学校保健計画を作成し、学校保健委員会を中心に、家庭や地域の関係機関と連携を図りながら、子どもたちの生活のリズムを整えるなど基本的な生活習慣を培うとともに、健康管理などにより学校保健活動を推進することが重要である。

平成23年度は、学校保健委員会を各学校で複数回開催しており、家庭・地域・関係機関との連携を図ることができた。さらには、小・中学校連携した地域学校保健委員会を開催する学校も増えており、地域との連携を深めることができています。

定期健康診断をすべての小・中学校で計画的に実施しており、疾病の早期発見・治療による健康の保持増進を行うことができた。特に歯科保健においては、歯科保健コンクールへの応募校も増え、児童生徒1人当たりのDMF保有数も低下している。定期健康診断において、耳鼻科医不足による耳鼻科検診の方法の変更が必要となってきており、変更に伴う報告方法の周知が、今後の課題となる。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
朝ごはんを必ず食べる	小学校	96.1%	100%	
	中学校	93.6%		
起床時間 7時までに起きる	小学校	96.0%	登校時間よりも遅くとも1時間前に起床	
	中学校	83.8%		
就寝時間	10時までに寝る	83.8%	10時を目安に就寝	
	11時までに寝る	56.3%	11時を目安に就寝	
DMF保有数	小学校	0.41	小・中学校平均 0.7 未満	
	中学校	1.23		
	平均	0.68		

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策6 食育の推進・学校給食の充実

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	
朝ごはんを ほとんど食べない	小学校	1年	0.1%	0.6%	0.2%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査 (各年度4月調査)
		2年	0.3%	0.4%	0.6%	
		3年	0.4%	0.7%	0.2%	
		4年	0.6%	0.6%	0.4%	
		5年	0.6%	0.3%	0.3%	
		6年	0.5%	0.4%	0.2%	
		平均	0.4%	0.5%	0.3%	
	中学校	1年	1.0%	0.5%	0.2%	
		2年	1.0%	1.4%	1.1%	
		3年	2.2%	1.7%	2.2%	
		平均	1.4%	1.2%	1.2%	



## ◎教育委員会の施策評価

「食」は、知・徳・体の基礎となるものであり、特に成長期にある子どもたちにとっては重要なものである。しかしながら、子どもたちの朝食欠食や偏食、肥満傾向の増加など食生活の乱れが指摘されている。学校と家庭が連携しながら、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせるとともに、学校における食育の推進者の指導力を向上させるため、研修を充実させていかななければならない。平成23年度においても、教育委員会では、「早寝 早起き 朝ごはん運動」に取り組み、各学校においては、独自に作成したチャレンジカードを子どもたちに取り組みせたり、栄養教諭等がエプロンシアターで指導するなど、工夫を凝らしながら取り組むとともに、保護者への啓発にも力を注いだ。

また、本市では、全小・中学校に学校ファームが設置されており、平成23年度も、児童生徒が栽培体験に取り組み、環境や食物に対する理解を深めることができた。また、栄養教諭とのティーム・ティーチングによる食に関する指導の充実がなされ、平成24年度より栄養教諭配置校が8校に増加され、さらなる充実が期待される場所である。

学校給食の衛生管理のために、教育委員会による給食室訪問や給食調理員を対象とした実技講習会を開催し、その徹底を図ってきた。

さらには、平成23年度末から給食食材を測るための放射線測定機が準備され、24年度から開始となり、新たな側面からの食材の安全性が確保される。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
朝ごはんを必ず食べる	小学校	96.1%	100%	
	中学校	93.6%		
朝ごはんをほとんど食べない	小学校	0.3%	0.4% 未満	
	中学校	1.2%	1.5% 未満	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
4 教育に関する3つの達成目標 推進事業	510 千円	A	「学力」の達成率	91.3%	93.5%	94.5%	
			規律ある態度80%達成 項目数（全108項目）	89項目	93項目	99項目	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランクの 児童生徒の割合	小学校	77.24%	78.37%	79.47%
				中学校	84.20%	83.90%	84.85%
5 魅力ある学校づくり事業	6,789 千円	A	委嘱研究発表校数	11校	11校	13校	
			市学力調査 平均値	小学校	52.5%	52.2%	52.4%
				中学校	50.9%	51.0%	50.7%
			教育に関する達成目標 （週1時間以上運動する児童 生徒の割合）	80.6%	79.9%	80.1%	
27 中学校部活動支援事業	3,080 千円	A	部活動指導員配置率	76.3%	78.9%	78.9%	
			運動部活動加入率	73.3%	75.3%	74.2%	
35 児童生徒体力向上推進事業	3,498 千円	A	運動部活動加入率	73.3%	75.3%	74.2%	
			教育に関する達成目標 （週1時間以上運動する児童 生徒の割合）	80.6%	79.9%	80.1%	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランクの 児童生徒の割合	小学校	77.24%	78.37%	79.47%
				中学校	84.20%	83.90%	84.85%
36 地域と連携した 体力向上支援事業	599 千円	A	具体的な取組数	—	6事業	6事業	
			教育に関する達成目標 （週1時間以上運動する児童 生徒の割合）	80.6%	79.9%	80.1%	
			新体力テスト 総合評価 上位3ランクの 児童生徒の割合	小学校	77.24% (県78.1%)	78.37% (県78.5%)	79.47% (県79.3%)
				中学校	84.20% (県82.5%)	83.90% (県83.6%)	84.85% (県83.8%)

## ◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
規律ある態度80%達成項目数		89 / 108項目	93 / 108項目	99 / 108項目	規律ある態度達成数 (小・中学校合計)
教育に関する達成目標 (週1時間以上運動する児童生徒の割合)		80.6%	79.9%	80.1%	
新体カテスト 総合評価 上位3ランク(ABC) の児童生徒の割合	小学校	77.24%	78.37%	79.47%	
	中学校	84.20%	83.90%	84.85%	

## ◎教育委員会の施策評価

児童生徒の体力低下が懸念されている現状から、児童生徒の体力向上は学校においても大きな課題の一つとなっている。本市においても児童生徒の体力向上を目指し、さまざまな取組を行う必要がある。児童生徒の運動に対する意欲を高め、日常的な運動の推進及び運動の機会を増やすことは児童生徒の体力向上に不可欠である。子どもの体力向上に関しては、喫緊の課題となっており、学校、家庭、地域、PTA連合会等の諸団体が連携・協力して子どもの体力向上を図ることが重要である。なお、大学教員、市体育関係団体、PTA連合会等の代表、市教育委員会が上尾市体力向上地域連携協議会を組織し、地域ぐるみで子ども達の体力向上を推進することは非常に効果的である、また、家庭や保護者・地域の方の関心を高めることは、児童生徒の体力向上の課題解決に向けた新たな視点となり、スポーツ都市宣言を行う本市として、子どもを含めた地域全体の体力向上に効果的であり、今後も継続して進めて行く必要がある。さらに、部活動は、心技体をはぐくむ場として有効であることから、専門的な技能及び豊かな経験を持つ指導員の配置は、部活動の指導に有効であることから、継続実施が必要である。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
新体カテスト 総合評価 上位3ランク(ABC)の 児童生徒の割合	小学校	79.47%	80%	81%
	中学校	84.85%	85%	86%
教育に関する達成目標 (週1時間以上運動する児童生徒の割合)		80.1%	85%	90%

学識経験者の意見



## 基本目標Ⅲ

### 安心・安全で質の高い学校教育の推進

---

- 施策1 教職員の資質・能力の向上
- 施策2 学校経営の改善・充実
- 施策3 学校施設・設備の整備・充実
- 施策4 学校のICT化の推進
- 施策5 学校安全の推進
- 施策6 就学支援の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
25 指導法改善事業	79,622 千円	A	指導の重点努力点配布数	933冊	935冊	942冊
			研修会実施数	37回	37回	44回
			市学力調査 平均値	小学校	52.5	52.2
			中学校	50.9	51.0	50.7

◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・ 算数（数学）・英語の総合	小学校	52.5	52.2	52.4	全国平均を50としたとき の市の平均値
	中学校	50.9	51.0	50.7	

## ◎教育委員会の施策評価

教員の大量退職の時代を迎え、採用者数が増加しており、優れた教員の確保が課題となっており、児童生徒一人一人の学力向上は、学校の最重要課題であるとともに、市民ニーズでもある。適正な教育課程を編成、実施し、学力向上及び教育活動の充実を図るためには、優れた指導力と使命感を兼ね備えた教員を育成するとともに、学校の教育力を維持向上させることが求められている。昨今の多様化する様々な教育課題に対応するためには、教職員のライフステージに応じた適切な研修や専門研修などを行い、資質・能力を向上させることが必要である。平成23年度も、埼玉県や市教育委員会がさまざまな研修会を実施したほか、教職員が休日や勤務時間外に自ら進んで、教師力アップ講座と題した各教科の指導法やICT機器を活用した指導法などについて自己研鑽にも励み、時代潮流に即した指導法等を体得し、質の高い教育を実施することができた。

また、デジタル教科書の配備、教師用指導用図書の配布により、創意工夫のある魅力的な授業を展開することができ、学校における教育活動の充実を図ることができた。さらには、上尾市の指導の重点・努力点を作成し全教員へ配布し、効率的に市の教育方針を周知徹底させ、指導方法の工夫改善、授業の充実を図ることができた。

教員の業務は、授業など直接児童生徒と接する業務のほか、事務的な業務など多岐にわたり多忙であるため、子どもと向き合うための環境づくりを進める必要がある。本市では、教職員が携わる事務のあり方を検討して、当該事務の改善を図り、もって当該教職員の負担の軽減に資するようにするため、上尾市立学校事務軽減検討委員会を設置してきたが、引き続き、教員が子どもと向き合うための環境づくりを進めていきたい。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.4	53.2	
	中学校	50.7	52.0	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
5 魅力ある学校づくり事業	6,789 千円	A	委嘱研究発表校数	11校	11校	13校	
			市学力調査平均値	小学校	52.5%	52.2%	52.4%
				中学校	50.9%	51.0%	50.7%
教育に関する達成目標 (週1時間以上運動する児童 生徒の割合)	80.1%	85%	90%				
25 指導法改善事業	79,622 千円	A	指導の重点努力点配布数	933冊	935冊	942冊	
			研修会実施数	37回	37回	44回	
			市学力調査平均値	小学校	52.5	52.2	52.4
中学校	50.9	51.0		50.7			
37 学校評議員制度運営事業	590 千円	A	学校評議員会議開催回数	3.18回	3.15回	3.30回	
			学校評価に対する 意見聴取回数	1.72回	1.64回	1.82回	
38 元気な学校をつくる地域連携 推進事業	450 千円	A	学校応援団員数	7,678人	9,795人	10,434人	
			学校支援活動件数	6,166件	8,435件	9,029件	

◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・ 算数(数学)・英語の総合	小学校	52.5	52.2	52.4	全国平均を50とした ときの市の平均値
	中学校	50.9	51.0	50.7	
教育に関する3つの達成目標 体力(運動習慣)		80.6%	79.9%	80.1%	
研修会実施数		37回	37回	44回	
学校評議員の学校評価に対する 意見聴取回数		1.72回	1.64回	1.82回	
学校支援活動件数		6,166件	8,435件	9,029件	



## ◎教育委員会の施策評価

児童生徒、保護者、地域の信頼と期待に応える学校づくりを行うためには、学校・家庭・地域社会が一体となり、相互に連携・協力した教育活動の展開が求められているとともに、学校が自らの教育活動や学校運営を評価・公表し、それに基づく改善を一層進めることが重要である。さらには、学校が様々な諸課題に迅速、的確に対応するために、組織力を強化するとともに、優秀な管理職を育成していくことが必要である。

本市では、学校評議員制度の活用を図ることにより、地域住民の学校運営への参画を図り、保護者や地域住民の意向を把握し、学校運営に反映させ、開かれた学校づくりが推進することができた。引き続き、市内のすべての小・中学校で組織されている学校応援団の学習支援、環境整備、安心安全に係る活動により各学校の教育活動の充実を図っていく。

また、月1回開催する校長会議、教頭会議においては、教育活動に関するさまざまな情報、諸課題を学校間において共有化させるために、情報交換を行う時間を設け、学校間の連携強化を図ることができた。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	52.4	53.2	
	中学校	50.7	52.0	
教育に関する3つの達成目標 体力（週1時間以上運動する児童生徒の割合）		80.1%	85%	90%
学校評議員会議開催回数（各校平均）		3.30回	4回	
学校支援活動件数		9,029件	10,000件	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
9 準教科書・副読本整備事業	13,448 千円	A	道徳副読本整備率	67%	67%	67%	
			規律ある態度80%達成 項目数（全108項目）	89項目	93項目	99項目	
21 小中学校図書整備事業	32,660 千円	A	増加冊数	小学校	15,717冊	7,179冊	13,272冊
				中学校	8,701冊	3,295冊	6,959冊
			廃棄冊数	小学校	1,674冊	593冊	43,153冊
				中学校	74冊	199冊	17,848冊
			年度末現有冊数	小学校	198,291冊	204,860冊	174,740冊
				中学校	111,496冊	114,566冊	103,677冊
図書標準 目標達成率	小学校	88.5%	91.6%	78.1%			
	中学校	79.6%	81.6%	72.1%			
39 小中学校校舎大規模改造 （耐震補強）事業	877,863 千円	A	耐震化棟数	10棟（72棟） （補強不要含む）	9棟（81棟） （補強不要含む）	12棟（93棟） （改築含む）	
			耐震化率	59.0%	66.3%	77.5%	
40 小学校校舎改築事業	1,448,948 千円	A	富士見小学校校舎改築 工事出来高率（%）	0%	30%	70%	
			中央小学校校舎改築工事	—	基本設計 耐力度調査	実施設計	
			改築事業完了校累計数	0校／3校	0校／3校	1校／3校	
41 小中学校教育教材整備事業	32,660 千円	A	児童生徒一人当 たりの支出額	小学校	2,251円	1,940円	2,073円
				中学校	3,201円	2,746円	2,741円
			備品購入費	小学校	29,687千円	25,307千円	26,662千円
				中学校	19,651千円	17,015千円	17,299千円

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	
図書標準目標達成率	小学校	88.5%	91.6%	78.1%	現有冊数 ／標準冊数×100
	中学校	79.6%	81.6%	72.1%	
校舎耐震化率	59.0%	66.3%	77.5%	平成22年度まで対象棟数122棟 平成23年度から対象棟数120棟	
改築事業完了校累計数	0校／3校	0校／3校	1校／3校	改築事業校（富士見小・中央小・上尾中）	

## ◎教育委員会の施策評価

学校施設は、児童生徒が1日の時間の多くを過ごす活動の場であり、また災害時には地域住民の避難場所となる場所であり、その安全性の確保は最優先課題でもあることから、積極的に支援を行っている。本市では、学校施設の耐震化は「上尾市立小・中学校耐震化推進計画」に基づき、耐震補強工事に係わるものは平成25年度までに完了することとし、改築工事に係わるものは平成27年度の完了を目標に事業を展開し、計画通り進めることができている。さらに、事業を前倒しするなど、国の補助金を積極的に活用し、財政的な見地からも効率的に進めている。

また、平成23年度には、児童が健康で快適な環境の中で授業に臨むことができるよう、改築を予定している小学校を除くすべての小学校の普通教室にエアコンを設置したが、平成24年度には中学校普通教室すべてに設置する。なお、節電が求められている昨年、今年の夏であるが、各校、子どもたちの健康を考慮し、適切にエアコンを使用するよう、市教育委員会が使用マニュアルを作成し、各校に周知した。

子どもたちや教員が授業等で使用する学習教材や教具、確かな学力と豊かな心をはぐくむ学校図書についても、国庫補助金を活用しながら国の標準指標に近づけるため計画的に整備している。平成23年度は、学校図書館管理システムを導入し、学校図書のデータベース化を図り、今後は、図書検索、蔵書管理を効率的に行うことが可能となった。さらには、平成24年度には、アップスマイル学校図書館支援員が各小学校に常駐することとなっており、また、平成24年7月には、「子どもの読書活動支援センター」が開所する予定である。これら学校図書関連施策と相乗効果を創出し、児童生徒が快適でより良い学習活動を行うための環境の整備を進めていく。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
図書標準目標達成率	小学校	78.1%	82.6%	87.1%
	中学校	72.1%	77.2%	82.3%
学校施設の耐震化率		77.5%	88.3%	97.5%

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
42 小中学校コンピュータ整備事業	112,725 千円	A	パソコン設置 台数	教育用	1,422台	1,421台	1,453台
				校務用	1,068台	1,080台	1,086台
			教育用パソコンの目標達成率 [児童生徒3.6人に1台]	26.5%	26.6%	27.3%	
			校務用パソコンの目標達成率 [教職員1人に1台]	102.0%	103.2%	102.0%	
43 小中学校電子黒板整備事業	7,857 千円	A	電子黒板ユニッ ト設置台数	小学校	9台	15台	128台
				中学校	11台	15台	22台
			電子黒板ユニッ ト設置率	小学校	8.6%	12.6%	45.7%
				中学校	5.6%	13.6%	26.8%
44 情報教育支援員配置事業	11,547 千円	A	支援員配置人数	9人	10人	16人	
			支援員配置回数	32.7回	27.3回	42.7回	

◎施策の成果指標

指標名		平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
教育用パソコンの目標達成率 [達成値・児童生徒3.6人に1台]		26.5%	26.6%	27.3%	達成値/(児童生徒数/整備台数)×100
校務用パソコンの目標達成率 [達成値・教職員1人に1台]		102.0%	103.2%	102.0%	達成値/(教職員数/整備台数)×100
電子黒板 ユニット設置率	小学校	8.6%	12.6%	45.7%	1学級につき1台を100%として 設置総数/学級数
	中学校	5.6%	13.6%	26.8%	
普通教室の校内LAN整備率		0%	0%	1校/33校	

## ◎教育委員会の施策評価

情報化が進展する中、教育においても情報化が強く求められており、国においても教育のICT化を積極的に支援している。

本市小学校普通教室において、国の補正予算を活用して大型テレビを設置し、有効活用しているが、引き続き中学校においても大型テレビを計画的に整備していきたい。また、平成23年度には、電子黒板ユニット150台を購入し、小・中学校に設置した。これについても同じく小中学校全クラスに1台ずつ整備できるよう継続的に設置していきたい。

教育現場のICT化により、授業風景も変わり、多くの教員が電子黒板を利用しながら授業を行っている。教育のICT化だけでもって、児童生徒の学力を向上させるものではないが、ICTを活用するタイミングやその使用方法などの工夫と、これまでの指導方法を組み合わせることで、児童生徒の学力向上につながるものと考えられる。平成23年度、教育委員会では、教師力アップ講座と題してICT活用研修会を通年で開催し、各教員のICT活用技術の向上を図ってきた。今後も、研修会を開催することで、指導技術の向上を図っていきたい。

また、教育のICT化により、各教員が作成した教材資料については、教育委員会内のネットワークで共有化を図っている。児童生徒の実態に即した、より良い指導教材づくりにつなげていきたい。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
教育用パソコンの目標達成率		27.3%	28.0%	28.5%
電子黒板ユニット設置総数	小学校	179台	245台	311台
	中学校	48台	70台	92台
普通教室の校内LAN整備率		1校/33校	100%	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
45 児童生徒安全推進事業	20,802 千円	A	新規防犯ブザー 貸与数	2,063人	2,061人	2,150人
			日本スポーツ 振興センター 災害共済給付額	18,126千円	17,819千円	7,966千円
46 学校安全パトロールカー事業	3,388 千円	A	各車1月あたりの パトロール平均回数	17.5回	15.9回	16.3回
			登下校時の事故件数	11件	12件	15件
			不審者事案等の件数	42件	46件	27件

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
登下校時の事故件数	11件	12件	15件	
不審者事案等の件数	42件	46件	27件	

## ◎教育委員会の施策評価

登下校時において児童生徒が巻き込まれる交通事故が絶えない現状であるが、本市では、子どもたちの安全確保のため、各学校に配置されたスクールガードリーダーを中心に、PTAや学校応援団、各地域の防犯ボランティアの皆様などの協力により、登校時の立哨指導を行うとともに、各学校において、関係団体と情報交換しながら連携を図り、地域ぐるみで子どもたちを見守る体制づくりを進めることができた。また、小中学校の下校時刻に合わせて、市職員及び地域住民により、学校安全パトロールカーの運行を行うとともに、防犯ブザーを貸与することによって、不審者による声掛け事案が減少するなど、その効果が表れている。

登下校時だけでなく、校内における事件、事故、災害から児童生徒を守るため、学校は安全の確保に努めるとともに、様々な場面を想定し、児童生徒に危機対応能力の基礎を培うことが求められている。例えば、危険に遭遇したときに避難できる家庭や商店に「子ども110番の家」の場所を覚えるために、「子ども110番の家」をスタンプラリーで確認したり、登下校時に「子ども110番の家」の方々とあいさつをするなどして、いつでも助けを求められる環境づくりを行っている学校も増えつつあり、こうした実践を全市的に広めていきたい。

平成23年度末には、上尾市学校安全マニュアル（防災編）を改訂するなど、防災教育の推進を図るとともに、これまで、各校独自で実施してきた避難訓練について、東日本大震災の教訓を踏まえて、平成24年度からは、全校一斉に緊急地震速報を利用した避難訓練と市教育委員会の情報収集訓練を同時に実施し、その結果、課題を見出し、今後の防災対策に反映させていく。

さらには、学校における危機管理体制をしっかりと確立させる必要があり、教職員の危機管理能力の向上を図っていきたい。

万が一の学校管理下における事故等については、日本スポーツ振興センターの災害給付制度により医療費の補助金を支給し、保護者の負担軽減を図っている。

通学路の交通安全対策については、各学校からの危険箇所に関する要望を直接把握し、通学路の安全を期すため、関係各課と協力し、児童生徒の安全に努めていく。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
学校安全パトロールカーパトロール回数 (各車1月あたり)	16.3回	20回	
登下校時の事故件数	15件	0件	
不審者事案等の件数	27件		

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
8 日本語指導職員派遣事業	2,224 千円	A	派遣指導員数	10人	12人	9人	
			指導員派遣率	100%	100%	100%	
47 入学準備金・奨学金貸付事業	5,980 千円	A	貸付件数	17件	16件	11件	
			貸付決定割合	85.0%	69.5%	64.7%	
			高校進学率	97.3%	98.6%	98.1%	
48 小中学校就学援助費補助事業	46,131 千円	B	就学援助申請人数	1,534人	1,568人	1,589人	
51 準要保護児童生徒給食費援助事業	64,910 千円		就学援助認定割合	94.1%	96.2%	95.7%	
			就学援助申請割合	7.9%	8.1%	8.3%	
			小・中学校就学率	100%	100%	100%	
49 小中学校特別支援教育 就学奨励事業	5,361 千円	B	特別支援学級 在籍者の割合	小学校	0.94%	0.95%	0.83%
				中学校	1.02%	1.03%	1.18%
			奨励費申請書 の配布・回収	小学校	97%	98%	100%
				中学校	93%	92%	97%
			奨励費受給者 の割合	小学校	95%	92%	94%
				中学校	91%	89%	86%
50 要保護児童生徒医療費援助事業	225 千円	B	医療券交付人数	642人	636人	52人	
			医療券使用人数	223人	199人	15人	
			医療券使用人数割合	34.8%	31.3%	29.0%	



## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
高校進学率	97.3%	98.6%	98.1%	高校進学者／市内中学校卒業予定者

## ◎教育委員会の施策評価

教育の機会の均衡のため、主に経済的な側面から、小、学校・中学校・高校・大学までの一貫した支援を行った。異なる家庭環境でも安心して同じように教育を受けられるよう関係機関と連携し、就学支援の充実に努める必要がある。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
高校進学率	98.1%	98.5%	99.0%

学識経験者の意見

## 基本目標Ⅳ

### 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

---

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

施策2 家庭教育の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
38 元気な学校をつくる地域連携 推進事業	220 千円	A	学校応援団員数	7,678人	9,795人	10,434人
			学校支援活動日件数	6,166件	8,435件	9,029件

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
学校応援団員数	7,678人	9,795人	10,434人	
学校支援活動件数	6,166件	8,435件	9,029件	

◎教育委員会の施策評価

学校・家庭・地域が一体となった教育を推進するためには、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点としての学校が積極的に家庭や地域に働きかけ、学校、家族、地域との絆を深めていくことが重要である。

本市においては、市内のすべての小・中学校において組織されている学校応援団の学習支援、環境整備、安心安全に係る活動により各学校の教育活動の充実が図られている。学校応援団の活動は様々であるが、例えば、長期休業中には学校図書館や公民館等を会場に、いわゆる寺子屋が開かれ、学校応援団の皆さんが指導に当たり、ときには中学生が小学生の学習を手助けするため参加している地域もあり、地域ぐるみでの教育活動を行うことができた。教育委員会としては、これまで地域に開かれた学校のあり方や学校応援団事業を広めるに当たり、このような事例を校長会や学校評議員の研修会などで紹介するなど、今後とも地域と一体となった取り組みを積極的に支援するとともに、安心・安全面だけでなく、学級支援や学習支援の面での学校応援団の活動を充実させていきたい。

また、市教育委員会では、教育に対する関心と理解を一層深めるとともに、学校・家庭・地域の連携による教育の充実のため、11月を「上尾市教育月間」として位置付けている。各学校では、この教育月間に合わせて、音楽会、敬老参観など、各校が特色ある学校公開を行い、地域との交流を図った。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
学校支援活動件数	9,029件	10,000件	10,000件

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
52 家庭教育推進事業	450 千円	A	家庭教育講演会開催数	1回	1回	1回
			家庭教育に関する講座等 委託団体数	6団体	6団体	4団体
			家庭教育に関する講座・ 講演会参加者数	1,405人	1,540人	1,426人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,405人	1,540人	1,426人	

◎教育委員会の施策評価

<p>家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点であるが、核家族化や地域とのつながりの希薄化や、親が身近な人から子育てを学んだり助け合う機会の減少など、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している時代において、育児への不安が増大するなど、家庭教育の向上が課題となっている。このため、これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めることなど家庭教育に関する学習を支援していかなければならない。家庭教育を支援するため、幼稚園保護者会に委託している家庭教育に関する講座や、市PTA連合会との共催で毎年1回外部講師を招いて実施している家庭教育講演会を行い、家庭教育に関する学習の機会を提供してきた。</p> <p>さらには、家庭教育に関する知識だけでなく、実際に子どもたちを指導する親の教育力の向上を図るため、市教育委員会が実施する事業のみならず、埼玉県が実施する「家庭教育アドバイザー」等の制度を各校PTA組織等が活用する等、家庭教育を支援していかなければならない。</p>
--

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,426人	1,500人	1,550人

学 識 経 験 者 の 意 見	
--------------------------------------	--

## 基本目標Ⅴ

### 生涯にわたる豊かな学びのサポート

---

施策1 生涯学習体制の充実

施策2 生涯学習施設の整備

施策3 生涯学習機会の提供

施策4 人権教育の推進

施策5 図書館運営の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策1 生涯学習体制の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
53 生涯学習指導者活動推進事業	444 千円	B	市民講座実施講座数	36講座	29講座	8講座
			市民講座参加者数	449人	359人	464人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
市民講座実施講座数	36講座	29講座	28講座	
市民講座参加者数	449人	359人	464人	

◎教育委員会の施策評価

生涯学習体制については、第3次上尾市生涯学習振興基本計画の効果的な推進を図りながら、市民の多様な需要に適切に対応するために必要な学習の機会の提供を行わなければならない。また、市民が実際に生涯学習を行う際にふさわしい指導者との出会いや学ぶ仲間づくりが重要である。指導者の紹介や新たな育成については、まなびすと指導者バンクのPRやレベルアップを図る必要がある。また、生涯学習を学ぶ仲間づくりについては、生涯学習サークル・グループ情報を定期的に最新の情報に更新するなど、市民が仲間づくりをしやすい環境づくりを続けていく必要がある。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
市民講座実施講座数	28講座	35講座	40講座
市民講座参加者数	464人	500人	550人

学識経験者の意見	
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
54 学校施設開放（生涯学習）事業	2,248 千円	A	利用団体登録	32団体	33団体	42団体
			利用件数	373件	344件	381件
			利用者数（延べ人数）	3,819人	3,608人	3,905人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
学校施設開放事業利用者数（延べ人数）	3,819人	3,608人	3,905人	

◎教育委員会の施策評価

これまで、市内6公民館及び学校施設開放事業（平方東小学校・芝川小学校）を中心に生涯学習施設を整備し、利用者の生涯学習意欲にこたえる施設の整備を行ってきた。これに加え、23年度には富士見小学校の校舎建替えに合わせ、学校施設開放事業を新たに行うための備品購入等を行い、24年度から富士見小学校で学校施設開放事業を開始できる体制を整えることができ、生涯学習の新たな拠点施設としての活用が期待される。また、6公民館についても建築から年数が経過しているが、今後も必要な改修を進め、時代の変化に対応した施設の整備を進めていきたいと考えている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
学校施設開放事業利用者数（延べ人数）	3,905人	4,200人	4,300人

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策Ⅲ 生涯学習機会の提供

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
53 生涯学習指導者活動 推進事業	444 千円	B	市民講座実施講座数	36講座	29講座	28講座
			市民講座参加者数	449人	359人	464人
55 成人式事業	2,370 千円	A	成人式対象者	2,122人	2,178人	2,144人
			成人式参加者	1,541人	1,618人	1,593人
			参加率	72.62%	74.29%	74.30%
56 公民館講座事業	2,937 千円	A	実施講座数	146講座	142講座	140講座
			講座参加者数(延べ人数)	22,226人	21,331人	17,503人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
公民館講座参加者数(延べ人数)	22,226人	21,331人	17,503人	

◎教育委員会の施策評価

<p>生涯学習機会の提供については、公民館事業のほか、地域の大学を活用した事業、まなびすと指導者バンク活動推進会議が学校開放施設を利用して行う市民講座、市職員が行う「あげお市政出前講座」などを行っている。また、市民が学んだ成果を生かすための生涯学習推進事業も進めている。今後、社会の高齢化等の変化により、市民ニーズの多様化が見込まれるため、それに柔軟に対応できる施策対応が要求される。</p>
--

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
公民館講座参加者数(延べ人数)	17,503人	22,000人	22,500人

学 識 経 験 者 の 意 見	
--------------------------------------	--



上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
57 人権教育推進事業 （生涯学習課所管分）	985 千円	A	児童生徒数	19,771人	18,947人	19,110人
			作品応募点数	18,981点	19,400点	18,705点
			人権標語作品応募率	96.0%	102.4%	97.9%
			人権教育集会所 利用者数	—	24,568人	26,869人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
人権教育集会所利用者数	—	24,568人	26,869人	

◎教育委員会の施策評価

現在も、さまざまな人権問題が生じている中で、人権教育・啓発の推進については、人権教育推進協議会を設置し、積極的に推進を図っている。さらに、子どもの頃から「人権感覚」をはぐくむことを目的に、全小・中学校生を対象にした人権標語コンクールを実施するなど、人権意識の高揚を図っている。また、人権教育・啓発を推進していく拠点施設として人権教育集会所の活用を図り、人権研修会等を積極的に実施している。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
人権教育集会所利用者数	26,869人	27,200人	27,500人

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
22 図書館資料整備事業	37,410 千円	A	蔵書数（全9館）	566,172点	574,733点	580,537点	
			蔵書密度（市民一人当たり）	2.49点	2.53点	2.56点	
			図書館利用者数（全9館）	390,129人	384,793人	385,539人	
			総貸出点数（全9館）	1,475,051点	1,440,079点	1,418,163点	
			貸出密度（市民一人当たり）	6.50点	6.34点	6.24点	
58 ブックスタート事業	3,024 千円	A	実施回数	24回	24回	24回	
			絵本配布率	95.0%	95.5%	98.2%	
			0歳～6歳 図書館利用者数	1,152人	1,383人	1,698人	
			児童書・紙芝居 貸出点数	児童書	157,719点	152,180点	153,654点
				紙芝居	4,059点	3,755点	3,573点

## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
図書館利用者数（全9館）	390,129人	384,793人	385,539人	
貸出密度 （市民一人当たりの貸出点数）	6.50点	6.34点	6.24点	

## ◎教育委員会の施策評価

図書館資料の整備・充実については、高度化・多様化する市民のニーズに応えるために社会情勢や蔵書バランス等を考慮し、迅速な資料提供ができるように努めた。県内の図書館の中でも蔵書数は、上位であり効率的に事業が実施されているので、引き続き蔵書冊数の拡大及び蔵書内容の充実を図るとともに、高齢者から次世代を担う子どもたちまで幅広い世代がサービス提供できるように対応していく。平成23年度、秋には、本に親しみを感じてもらうために「図書館まつり～こどもの未来に 図書館からの贈り物～」を開催した。市民から「わたしの一冊」を募り紹介するなど、工夫を凝らし事業を行うことができた。

また、子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。ブックスタート事業は、赤ちゃんが絵本に触れるきっかけを作るとともに、家庭での読み聞かせにより、保護者と赤ちゃんが絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときを作り、情緒豊かな子どもの成長につながる。また、絵本の配布後の読書支援活動等の事業も行い、育児支援に大きく貢献している。

また、学校教育との関連に関し、子どもたちの豊かな心をはぐくむ観点から、学校図書館との連携の強化を図り、平成24年度には、子どもの読書活動支援センターを開設する。子どもの読書活動支援センターは、子どもたちが本を読む楽しさを知り、生涯にわたる読書習慣を身に付けられるようにとの願いを込め、さまざまな事業を進めていく。事業内容としては、家庭や学校への読書活動支援、子どもの読書普及活動を行うボランティアの支援育成、また、子ども向けの読書に関するイベントなどを予定している。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
図書館利用者数（全9館）	385,539人	386,268人	390,813人
図書蔵書点数	580,537点	586,537点	593,037点

学識経験者の意見

## 基本目標Ⅵ

### 文化芸術の創造と文化財の保護

---

施策1 文化芸術活動の推進

施策2 文化財の保護

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
59 文化芸術振興事業	2,135 千円	A	文化団体連合会加盟団体数	13団体	14団体	12団体
			文化芸術祭参加者数	3,000人	3,000人	3,000人
60 美術展覧会事業	1,332 千円	A	作品出品点数	513点	506点	503点
			入場者数	2,791人	2,891人	2,571人
61 市民音楽祭事業	540 千円	A	参加団体数	55団体	48団体	49団体
			入場者数	1,162人	1,263人	1,251人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
市民ギャラリー利用率	100%	100%	96%	

◎教育委員会の施策評価

心豊かに暮らせるための街を実現するためには、広く市民が文化・芸術に関心を持ち、文化・芸術団体の活動が活発に展開されていることが必要である。  
身近で多様な芸術活動に市民が触れることができ、文化芸術活動への参加が容易にできるために人材、場所、機会への支援が文化活動の発展を促すことにつながる。そのため文化芸術団体への支援、市美術展や音楽祭の開催、市民ギャラリー等の運営を行っており、更なる充実に取り組んでいる。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
市民ギャラリー利用率	96%	100%	100%

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標				
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
62 文化財調査・保存事業	2,003 千円	A	未指定・未登録の文化財調査件数	9件	5件	9件	
			文化財修理補助金 交付金額	75,000円	414,000円	208,100円	
			市指定・登録文化財の数	114件	113件	117件	
			指定・登録文化財の修理件 数	1件	3件	4件	
63 埋蔵文化財調査事業	3,762 千円	A	試掘調査	74件	50件	48件	
			国庫補助対象の発掘	2件	1件	0件	
64 文化財保護啓発事業	23 千円	A	文化財保護啓発事業 延べ日数	8日	8日	15日	
			文化財保護事業参加 延べ人数	263人	242人	977人	
65 歴史資料調査事業 66 古文書整理事業	3,815 14,459 千円	A	旧役場文書目録の発行 ※括弧書きは掲載点数	1文書 (4,704)	1文書 (6,820)	1文書 (5,776)	
			旧大谷農協文書 マイクロ化	撮影コマ数	20,624コマ	70,378コマ	121,196コマ
				進捗率	33.1%	46.3%	64.6%
古文書のデジタル化	0文書	4文書	3文書				

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
指定登録文化財の数	114件	113件	117件	
指定登録文化財の修理件数	1件	3件	4件	

## ◎教育委員会の施策評価

上尾市の文化や歴史を後世に残すために、文化財の調査・指定、保存・修理を行う。  
文化財を活用した講座・展示会を開催し、市民に対して文化財の保存継承や意識啓発を続け、広く上尾市の文化や歴史への理解を深める事業として継続的に進めていく必要がある。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
指定登録文化財の数	117件	119件	121件
指定登録文化財の修理件数	4件	4件	4件

学識経験者の意見

## 基本目標Ⅶ

### 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

---

- 施策1 スポーツ振興計画の策定
- 施策2 スポーツ施設の整備・充実
- 施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実
- 施策4 スポーツ指導者の育成
- 施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援



上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策1 スポーツ振興計画の策定

## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度
スポーツ推進計画策定進捗状況	—	計画策定方針検討会議の設置・検討	スポーツ推進審議会に諮問

## ◎教育委員会の施策評価

国においては、国民生活における多面にわたるスポーツの果たす役割の重要性に鑑み、スポーツ立国の実現を目指し、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年6月に「スポーツ基本法」を制定し、平成24年3月30日にスポーツ基本計画を策定した。

本市では、昭和51年5月2日に、市民一人一人がスポーツに親しみ、スポーツを通じて心と体をたくましく鍛え、市民相互の交流と連帯感を育くみ、創造的で人間性あふれる上尾市を築くため、上尾市スポーツ都市宣言を行った。この宣言以降、スポーツ宣言都市にふさわしい、スポーツ施設の整備や拡充などを進めつつ、上尾シティマラソンや市民体育祭などのスポーツイベントや各種スポーツ教室などを開催し、上尾市スポーツ都市宣言を裏切るものとする施策に取り組んできたが、これまで取り組んできた施策を、生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動を支える施策として取り組むためには、より体系的・計画的に推進する必要がある。

こうした背景を踏まえ、本市におけるスポーツ推進計画を平成24年度中に策定するため、平成23年度中は、職員による策定方針検討会議を設置し、素案の作成を行った。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
スポーツ推進計画策定進捗状況	スポーツ推進審議会に諮問	計画の策定	

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
67 学校施設開放（スポーツ 振興）事業	2,884 千円	A	学校開放登録団体数	567団体	568団体	552団体
			学校開放施設利用者数	450,000人	426,000人	323,000人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
学校開放施設利用者数	450,000人	426,000人	323,000人	学校開放例月利用報告書

## ◎教育委員会の施策評価

本市の屋内施設スポーツの拠点として、市民体育館があるが、平成23年3月11日の東日本大震災によりアリーナを含め被害を受けた。現在市民体育館のメインアリーナは使用中止の状況にあるが、平成24年度中に大規模改造（耐震補強）工事を行い、平成25年度のリニューアルオープンを目指している。その際には、施設の効率的な管理運営を図るため、指定管理者制度を活用し、市民サービスの向上と管理の充実に努めていく。また、22万7千人の都市としてふさわしい、第二市民体育館の建設について、スポーツ推進審議会に意見を図りながら検討を進めていく。

屋外のスポーツ施設としては、平塚サッカー場、平方スポーツ広場、平方野球場があるが、多様な市民ニーズに応えられるよう施設整備を進めていく。

また、身近な地域スポーツ活動の拠点として、学校教育に支障がない範囲で、市立学校の体育館、グラウンドを市民に開放している。

施設の予約については、「公共施設案内・予約システム」を導入したことにより、インターネットやタッチパネル等を通じて利用者が簡単に申し込むことができるようになっている。引き続き、施設の効率的な活用方策を検討していきたい。

さらには、各施設への交通アクセスについては、利便性の向上に努めると同時に、自転車を利用する人を増やす方策（サイクルタウンあげお）を進め、環境にも配慮していきたい。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
学校開放施設利用者数	323,000人	400,000人	410,000人

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
68 スポーツ大会等開催事業	23,191 千円	A	開催事業日数	4日	4日	3日
			上尾シティマラソン 参加申込者数	8,951人	9,641人	8,805人
69 スポーツ教室・講演会開催 事業	406 千円	A	開催事業日数	22日	21日	17日
			参加者数	555人	520人	561人

## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
上尾シティマラソン参加申込者数	8,951人	9,641人	8,805人	
教室・講演会参加者数	555人	520人	561人	延べ参加者数

## ◎教育委員会の施策評価

24回目を迎えた上尾シティマラソン大会も本市の一大イベントとして定着し、平成23年度も中学生をはじめとする多くのボランティアによって支えられ開催することができた。その他の各種スポーツ大会も、市民のスポーツ活動として定着している。今後は、さらにスポーツ大会参加の機会を提供していくために市民意識を的確に把握し、種目や内容などの充実を図っていきたい。

現在、いきいき推進事業を上尾市体育協会が自主事業として実施しているが、今後は、各競技団体で自主事業の実施支援を行うとともに、地域の集会施設を利用した地域スポーツ教室の充実を図るなど、より多くの参加が得られるよう対象の見直しや創意工夫を行い、各種スポーツ・レクリエーション教室を充実させていく。

また、近年、子どもの体力の低下が懸念されているが、小さな子どもたちも就学前から楽しく元気に身体を動かす必要があることから、保育園・幼稚園等と協力し、運動や遊びを保護者や地域の住民と一緒に進める活動を進めるとともに、身体の発達段階にある青少年に対しても、スポーツを通して身体的・精神的に成長する機会を提供し、規範性、協調性、創造性等社会生活に適応するための基本的要素を身に付けられるよう、関係機関との連携をすすめながら、地域と一体的な取り組みを推進していきたい。そして、高齢化社会においても、生涯にわたり健康で、明るく、いきいきした生活を送るため、壮年層や高齢者を対象としたスポーツ事業を積極的に推進していきたい。

## ◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
上尾シティマラソン参加者数	8,805人	9,000人	10,000人
教室・講演会参加者数	561人	560人	560人

学識経験者の意見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

## ●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
69 スポーツ教室・講演会開催事業	406 千円	A	開催事業日数	22日	21日	17日
			参加者数	555人	520人	561人

## ◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
教室・講演会開催日数	22日	21日	17日	

## ◎教育委員会の施策評価

スポーツ選手の育成に不可欠な質の高い指導者の養成を図るため、スポーツ団体、学校、関係団体等と連携強化を図り、機能するシステムを構築していかなければならない。

平成23年度は、スポーツ基本法に基づき、44名のスポーツ推進委員を委嘱した。日頃、市民に対しスポーツの指導・普及を行うとともに、スポーツの推進を図るため学校、公民館等で様々なスポーツ事業について、スポーツ推進委員をはじめ、地域、各体育団体等と協力し、本市のスポーツ推進を図ることができた。

今後は、さまざまな分野の指導者情報を収集・提供するとともに、指導に関する情報交換を行うなど、指導者の活動支援を活用するとともに、各種スポーツ指導者研修を実施していく。

## ◎次年度以降の目標設定

目 標 指 標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
教室・講演会開催日数	17日	20日	25日

学  
識  
経  
験  
者  
の  
意  
見

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成23年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
68 スポーツ大会等開催事業	23,191 千円	A	開催事業日数	4日	4日	3日
			上尾シティマラソン 参加申込者数	8,951人	9,641人	8,805人

◎施策の成果指標

指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明
体育協会加盟団体人数	19,938人	19,229人	20,120人	



## ◎教育委員会の施策評価

市民の主体的なスポーツ活動が活発に展開されるためには、各スポーツ団体による主体的で積極的なスポーツ活動支援が期待される。今後もスポーツ推進を図る上での重要なパートナーとして、スポーツ団体の活動・運営を一層支援していく。

スポーツは、人々の健康増進や医療費抑制の観点からも、その効果が期待されている。

本市では、市民の健康・体力の維持・増進のために独自で創作したアッピ元気体操（転倒予防を目的とした筋力トレーニング、柔軟性・バランス能力の向上を目指した体操）があるが、今後、「超高齢社会」を迎えるにあたり、誰もが健康で自立して暮らせるよう、福祉部門を中心に関係各課とも連携しながら、市民の健康づくりを進めていく。また、自治会館や集会施設を利用し、より身近なところでの健康体操事業を拡充していく。

## ◎次年度以降の目標設定

目 標 指 標	平成23年度実績	平成24年度目標	平成25年度目標
体育協会加盟団体人数	20,120人	20,200人	20,300人

学識経験者の意見